

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700415		
法人名	合資会社 在宅介護サービス たんぼぼ		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地	岡山県井原市下稲木町12681		
自己評価作成日	平成22年3月19日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370700415&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が、安心・癒し・楽しみながら生活できるように、1ユニットであるが敷地面積を広くして昔の長屋をイメージした作りをてます。又、食堂や居間・トイレ等、歩いて出ることにより生活リハも活かされるようにしております。同じ事業所内に放課後児童クラブもあるため、子供たちやその保護者とのふれあいもあります。この稲倉地区ならではの季節行事等にも積極的に参加させていただき地域の人々との交流もあります。近くの小学校の授業の一環としてグループホーム内の清掃活動や入居者との触れあう機会もあります。毎年、幼稚園では、運動会や学芸会に招待さ幼稚園児と入居者との交流も積極的に行っていたいでいます。事業所内も食堂前には田んぼがあり、稲を植え、収穫等季節感が味わえることも入居者にとっては刺激になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差した福祉の拠点をと、広大な土地にグループホームたんぼぼと居宅介護支援センター及び学童保育を、昔ながらの長屋の様につらえて6年目となる。核家族が増え、家族の形が歪になっている今、日常的に子供達やその親族と交わせるこのホームの姿は、ほのぼのとした暖かさを感じさせてくれる。子供達が大好きなお年寄りの為であるだけでなく、子供達にとっても得るものは大きいだろう。この交流が地域社会の橋渡しになったり、このホームの存在感を地域に広めてくれる役割も果たしている。また、利用者の中にはこの生活で心身の状態が改善され我が家の生活を取り戻すことができたという人もある。こんな人を一人でも増やしたいと言う。他にはあまり見られないユニークなホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・この地域で何かできることはないか？入居される方がどんな思いで生活してもらえばいいのかを事業所の理念として掲げている。 ・GHマニュアルを作成し職員一人ひとりに理念の実現を常に考えていくように努めている。	安らぎと喜びのある毎日・安心と尊厳のある生活・住み慣れた地域での暮らし、等の、事業所理念を大きな柱として、毎月のミーティングや申し送り等で確認し合ったり、注意を喚起したりしている。	理念について職員はよく理解し共有・実践しているが、短期間で手の届きそうな、具体的な小目標を職員間で話し合い、設定し、確実に評価し合えばもっと有効と思う。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・この地区の季節行事や小学校・幼稚園との交流も年間行事計画にあり地域の方々との交流を多く持つことができる。	放課後児童クラブの子供達やその親との関わりが毎日の様にあるだけでなく、その波及効果は大きく地域との交流に発展している。例えば事業所のお祭り・お楽しみ会、文化祭その他の事業で楽しいおつきあいがみられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会にて、議題に「認知症の理解」をしていただけるように時間を設けている。 ・小学校の授業で、認知症の理解についてグループホームの職員が話をした。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・GHでの取り組みや事業報告等を行いいろいろな意見交換をしながらサービス向上に活かしている。 ・議題はあまり決めないでフリートークができるようにしている。(硬い話しはしないように)・認知症の理解についても行っている。	小学校長・自治会長・家族代表・福祉事務所・事業所関係職員等、多くの参加があり、ホームの現状、事業等の報告や計画、その他意見交換や情報交換をしている。家族代表からの意見もあり、認知症対応についての話もあった。	運営推進会議の年間計画について、取り組み全般(例えば、開催時期・回数・会議内容等)について、改めて練り直したい。内容については変化のあるものも加えてみたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・事故報告等、いろいろな場面において分からないことや新しい情報を得られる場として市町村担当者や話しをできる機会を設けている。	運営推進会議や地区の協議会等での連携だけでなく、常日頃から何か疑問に思う事や確認したい事等、行政の担当者や連絡を取り指導や助言をお願いしている。現状報告も常時して理解して貰っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・マニュアルを作成して職員全員に理解出来るようにしている。 ・出来る限り施錠は行わないようにし、旅行やドライブ等に出掛けられる場面を多くもてるようにしている。	以前、身体拘束の対象となるような場面があったが、職員間でよく話し合い、あらゆる角度からの検討を重ねた結果、回避できた経験もある。夜間「外に出たい」と強く訴える人に対しても、少しドライブしてくる等、よい対応をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待という言葉は範囲が広く言葉や暴力、介護拒否等さまざまな虐待があるため、月に一回のミーティングで話し合いができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・以前、成年後見人制度を活用された入居者の家族もいた為、会議等で話せる機会があった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・運営規程・重要事項は、見学に来られた際に説明を行うように努力している。規程内容を全て理解していただくのは難しいが、必要な事項について十分に説明していくように心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の要望は出来る限り反映できるように努めている。外部者にはGHの現状など報告することも少なくない。	職員が利用者にゆっくり寄り添う場面も多く見られ、利用者から色々な話に耳を傾ける姿勢もある。また、家族とは面会時等によくコミュニケーションを取り、できる限り希望や要望を聞いて受け入れようとしている。	利用者本人からも家族からも、ホームの運営につながるような会話を今以上に引き出せる様な工夫と、それらをきちんとした形で整える仕組みができればと思う。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングにて運営や職員の意見や提案について職員全員で理解できるように話し合いを行っている。	「グループホームから在宅への可能性を広げる為に、可能な方に月1位で自宅に泊まる試みはどうか」という提案がある職員から出たと聞いた。このような意見が職員間で交わされている状況を高く評価したい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・月に1回のミーティングにおいて、職員の気持ち等、出来る限り聴ける場を設けて改善できることはすぐに改善している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業運営会議を年1回以上は設け話し合う機会を多く持つようにしている。また、GHでは、代表者、管理者、計画作成担当者、職員代表と問題や伝達事項があれば随時、話し合う機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他県及び県内のGHとの交流等積極的に話しができる環境を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ミーティングにて、入居者の要望や不安等職員全員で話せる機会を設けており安心して生活できるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・随時、家族と連絡及び面会時に話しを行うように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族や本人の気持ちを第一に考え、サービス導入時やそれ以降のサービス変更時においても面会時等に話し合いを行い、その人らしい生活や生きがいを見つけて支援できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・冗談を言い合ったり、たまにはけんかをしたり、職員の悩み事を入居者に相談したりと家族のような関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎年、家族を含めた忘年会や旅行を行ったり、お盆や年末年始は家族と過ごせるように働きかけている。GHだけの生活ではなく家族との時間も大切にしていけたらと考えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場所については、面会やドライブ等により外出よして関係が途切れないよう努めている。	お正月の初詣に「皆で近くの神社へ」ではなく、それぞれ馴染みの神社に職員と一緒に参りして懐かしがられたり、家族にも協力をお願いして可能な状況の人にはできる限り自宅へ帰る事を勧めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士の会話に職員も加わり、楽しく過ごせるよう支援している。 ・入居者同士がけんかになった場合は職員が間に入り、和解できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用が終了しても、担当のケアマネ等より現状報告を確認し、出来る限り関係は大切にしていこうと努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・思いや暮らし方は個々に違うためそれを尊重していくようしている。 ・困難な場合は、本人の表情や行動を観察しながらその場に応じて対応している。	例えば「誕生日にはその人の希望通り行きたい所へ行って好きなものを食べる」等いつもではないが、希望が叶えられる日もあるようにしている。本人の思いをより深く知る為に、一人ひとりの人生暦の記録も作っている。	日頃から利用者に寄り添い話を聞く時に、その人・その時の思いや希望をメモして残しておく、ケアプランにつながる事もあるし、会話が成立しない状態になった時役立つと思う。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来る限り情報提供を多く収集して理解し把握に努めている。 ・居室には、本人の馴染みのある筆筒や写真が飾られている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活記録表や日報、申し送りにより一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族意向や入居者の訴え等をもとに、GH職員全体で把握しミーティング等を通じて話し合い介護計画を作成している。また、状態の変化が生じた場合は随時、介護計画を変更している。	簡潔で判り易いケアプランで、具体的な取り上げ方なのでモニタリングもし易い。職員は自分ノートを作り、気づきや伝達メモで情報共有をしている。本人・家族の意向がもっと伝わり易い記録があれば、さらに意向を理解し易い。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員だけでなく、誰が見ても分かりやすい記録を作成し職員全体で把握・共有できるようにしている。 ・業務日報に必要な記録や職員全体に伝えたいことを記入するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・日々、GHでの生活は変化するため柔軟に対応できるようにしている。天気が良ければ散歩したりドライブをしたりとその日の状況に合わせた対応を出来る限りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・GHと放課後児童クラブがあり、子供たちの遊ぶ声や走り回る姿を見ることで心身的に落ち着かれる場合もある。・事業所の見学や看護実習施設としての受入の問い合わせもきている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期受診については、家族の方をお願いしている。また、診りつけ医と事業所の連携を密にして情報を共有できるようにしている。(情報提供等)	内科・眼科・歯科その他協力医とはよい連携が取れており、医療面では安心できる。病院からの書面の情報提供もある。受診付き添いは家族で、としているが、緊急時や家族の状況によっては職員が支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職と看護職は密に連絡をとり、入居者の日々の状態を把握し、体調の変化にすぐ気づき適切な対応ができるよう努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・協力医療機関だけでなく、地域の病院その他、診りつけの病院との連携を積極的に行えるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・職員全体で、どこまでケアが行えるかを話し合い重度化した場合や終末期において家族と話し合いを設けて医療機関と共に支援していくこととしている。	最期までの看取りの経験はないが、それに近い人のターミナルケアや急変の後病院で亡くなるといった例もあり、以前から職員間でよく話し合い、ホームとしての方針を定めている。家族とも話し合い、終末期ケアに於ける確認や同意を得る様にしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを作成して周知徹底を行っている。応急処置や手当等についてはすぐに読むことができるように決められた場所に保管しいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年度ごとに、消防訓練計画書を作成し、マニュアルも作成している。 ・最低、年2回は消防訓練を実施できるように努める。	平屋で非常口も多いホームなので問題は少ないが、年2回、昼と夜を想定し、利用者・学童も参加して避難訓練を実施している。その他、総合点検・救急処置や緊急時対策の講習会等も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ミーティングにて、言葉掛けやケアの対応について話し合いを行っている。 ・ケアマニュアルを作成している。	ホームも6年目を迎え、日々のケアがマンネリ化しない様「認知症という症状を見る」と同時に「個々を見る」に重点を置きたいと管理者は話す。その人のその時の表情から「どうしたいのか」察知できる力を向上させようとしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来る限り本人の訴えや思いを言える環境を模索していくようにする。 ・家族の方にも支援していただけるように相談や話し合いも行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・介護計画をミーティングにて全職員に伝達すると共にその人らしい生活が送れるように支援できるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしさを重視し身だしなみやおしゃれが常にできるように心がけています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人ひとりの食事の好き嫌いを出来る限り把握して食事が楽しくなるよう支援している。 ・野菜を切る等の前準備や食後の食器洗い、食器拭きを入居者と職員が一緒に行っている。	高齢者にとって食べる事は一番大切な事の一つとして、例えば「新鮮な食材・味付け・食器・見た目」等、色々な工夫に拘りを感じる。利用者も出来る事には参加。今日も美味しそうなおやつ作りに楽しそうな様子が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居者一人ひとりの食事状況を把握し、栄養やバランス・水分量が確保できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後、歯磨きのできる方には声かけを行い 困難な方には口腔ケアを行い、義歯についても清潔な状態で使用できるようにして、常に口腔内を清潔に保持できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排尿・排泄チェック表を活用している。 ・排泄時間の把握に努め出来る限りトイレにて排泄できるように努めている。	入居時使用していた人も支援により尿感覚を取り戻しおしめ外しに成功。家族にも喜んで貰えたと言う。排泄の自立支援も人間の尊厳に大きく関わる事として職員はよく頑張っている。それぞれの表情からもサインをよく汲みとっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・下剤の調整・ヨーグルトやバナナジュース等食事にも工夫して自然排便できるように努め水分補給についてもイオンゼリー等を活用し水分を摂取できるように工夫を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は事故が多く、入居者の方も緊張しながら入浴されるため言葉掛けや誘導を重視する。また、全身観察にも努めるようにしている。 ・職員と入居者が唯一話しをゆっくり聴ける場なので大切にしている。	入浴は高齢者自身にとっても、職員にとっても多くの喜びや「得ることの多い生活の一場面」として重視している。ホーム設計の段階で計画した、脱衣・入浴・着衣のスムーズな流れや個別の脱衣籠等小まめな工夫も見られる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・出来る限り日中は、起きていただくように軽作業等していただいて、夜ぐっすり眠れるようにしている。入居者より休みたいとの希望があれば居室へ誘導している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入居者の服薬管理は看護師が行うようにしているが、一人ひとりの服薬についてはリストを作成して職員に把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・気分転換については、ドライブや散歩等を行っている。また、折り鶴作りや季節の壁画を作ったり、食事の準備や洗濯物干し、洗濯物たたみを一人ひとりの力に応じてできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族にも協力していただきながら、出来る限り出掛けるようにしている。(買い物・ドライブ・実家等) ・年1回の旅行も家族の協力を得ながら行っている。	今日は雨の日で行けないが、近くのお寺にはしだれ桜も美しい散歩コースがあると言う。週3回の食材買出しにはドライブがてら利用者も同行するし、不穏な人とは散歩やドライブをしている。雨の日は広い空間が生活リハビリとして活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人がお金を持したいとの訴えがある方には家族の方と相談の上、できるだけ金銭管理を支援しています。(家族の方には、紛失等が考える為、了解していただいています。)・買い物も職員付添のもとに行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙のやりとりは、出来る限り支援している。(家族が、負担にならないように相談をしながら)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食堂の窓の外は田んぼであり、季節感が味わえる。 ・壁には入居者と作った季節の壁紙を貼って飾りつけをしたり、季節の花を入居者に生けて貰っている。	このホームを開設する前、時間をかけて多くのホームを見学し、他に無い様なゆったりと広いスペース、その他様々な拘りを持って建てられた。周辺の環境も良く、ホーム内や窓から子供達の遊ぶ姿が見えるのも良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った同士で席が決まっており、一人になりたいときは、居室に戻られたりして調整しながらストレスがないように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時になるべく馴染みのある筆筒や鏡台等を持参していただくと共に、自分の部屋だと分かるように出入口付近へ写真を飾っている。 ・居室のレイアウトはできる限り家族へお願いをしている。	自分の洋服を着れない程どっさり持って来ている人・クローゼットの中に仏様をお祭りする人等、「私の物」が一つでもあれば自分の部屋と思って貰えるので、その旨を家族に話し、協力して貰っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・生活の中にリハビリをという考えをしており、広いパブリックスペースでゆったりとした動きがとれるようにしている。・お風呂について、入口と出口を設けて待つことのないようにしていくと共に清潔と不潔を区別している。		